

2009年8月4日 現地講義

バンテン州、タマンジャヤ村の概況

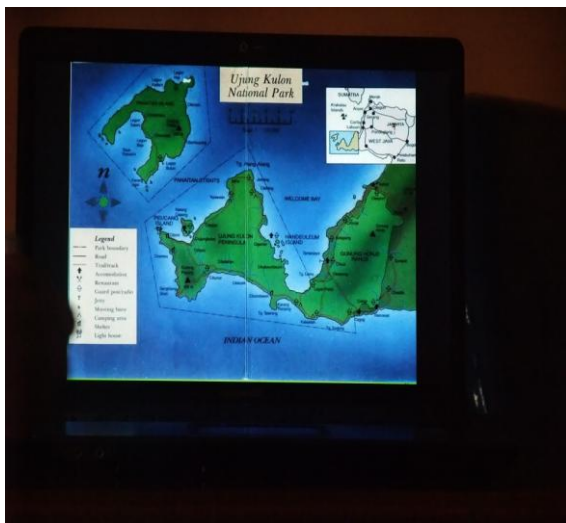
アリフ・キルディアット (バンテン研究所)

タマンジャヤ村でのフィールドワーク／ホームステイの準備として、タマンジャヤ村及びウジュンクロン国立公園の概況説明と、村での滞在における注意事項について説明された。

タマンジャヤ村の住民の多くはスンダ人である。日常的によく使われるスンダ語が紹介された。スンダ語はインドネシア語と大きく違う言語であり、インドネシア語の既習者であってもコミュニケーションをとることは難しいといわれている。

ウジュンクロン国立公園には、世界でも珍しく、とても希少な動物であるジャワサイが生息している。この国立公園には人の手がかえられていない多種多様な自然が多く残っているようである。

村で生活していくうえでの注意点の説明があったが、そのなかでも印象に残ったのは、お祈りをしているときに騒いではいけない、お酒を飲んではいけない、などイスラム教に関する事であった。さらに、9時までに家に帰らなければいけないことや、夜は懐中電灯が必要であることなど生活のルールや、生活上の注意点などが説明された。そのほかにも日本と大きく異なる点が多くあった。携帯電話会社によってはつながらないところがあると聞き、ますますこれからどんなところに行くのだろうかという期待と不安が増していった。



ウジュンクロン国立公園位置図



タマンジャヤ村概略図

(記録：佐々木明日香)